

医療の基礎的・先駆的研究助成事業

30 周年記念報告書集

ごあいさつ

我が国において、死因の上位を占める疾患の基礎的研究の促進を図り、学術の向上と国民の健康増進に寄与することを目的として、当財団では昭和 62 年度から助成事業の枠に新たに「がん・心臓病の基礎的研究事業」を設定し、更に平成 13 年度からは「がん・心臓病の先駆的研究事業」も対象に加え、「医療の基礎的、先駆的研究助成事業」として平成 29 年度までに 550 件のプロジェクトに対し、約 4,248 百万円の助成を行なってまいりました。

がんの早期発見、心臓病の予防等は現代人の国民生活にとって大変関心の高いものであります。

がん研究を見ると、がん本体の解明とその診断及び治療法の開発等がん制圧のための研究が鋭意進められており、その研究成果も上がり、がんは治る病気といった感を抱かせます。

また心臓病についても分子生物学的領域にまで研究が進んでおり動脈硬化や心臓病の治療に遺伝子を用いる手法等も行なわれるようになりました。

これらの研究事業を実施された研究者の方々は、限られた期間のうちに少人数で研究を行い、これを取りまとめることは非常なご苦労があったと思います。これまでの研究成果は、それぞれの学会或いは論文により発表されて、それぞれに高い評価を受けておられます。

がん・心臓病研究に対しての助成事業開始 30 周年を踏まえ、この研究成果について、より広く社会の各方面に公表することが必要との声もあり、この要請に応えるため研究報告書集としてここに刊行する次第です。

がん・心臓病の今後の研究に少しでも役立てば幸いです。

平成 31 年 3 月

公益財団法人車両競技公益資金記念財団

理事長 深 澤 亘

30 周年記念報告書集発刊に寄せて

この研究業績集は、本公益財団法人車両競技公益資金記念財団の研究助成事業の 30 周年を一区切りとして、その成果をまとめてみる試みとして作成された。

本助成事業の目的は、最初「がん・心臓病の基礎的研究助成」であったが、途中から「医療の基礎的・先駆的研究助成」に変更されている。対象をより広くし、先駆的研究も取り込もうという積極的な意図があったと思われる。しかし発足時からの流れから、助成対象はほぼがんと心臓病に集約されて来ている。先駆的研究は、遺伝子学、分子生物学の発展に呼応して徐々に増加している。

本事業の年間予算は一億円前後で、比較的小規模である。そこで本事業の発足に携わった人たちは、本事業の独自性と有効性を高めるために審査・運営・助成として以下の 3 項を作った：1) 助成の対象は私立大学や民間研究機関の研究者にする。2) 助成金はあまり少額にせず、これはと思う研究に比較的大型の助成（最高年間 1,000 万円まで）を行う。3) 研究がよく進展すれば、3 年間まで継続して助成する。

この方針は、よく考えられた、そしてなかなか気宇雄大なものであった。本助成事業が始まった頃までは、政府の科学研究費は、一部に大型で継続性のあるものが登場しつつあったが、概して小型であり、それも年単位で申請して審査を受け更新されるものであった。多くの研究者は、いくつもの申請をして少額の研究費をかき集めて仕事をしなければならず、申請と報告の作業に忙殺されると共に、常に翌年の研究費調達の不安を抱えていた。研究資金基盤の脆弱な民間組織の研究者の悩みは特に大きかったと言える。このような状況の中で、民間の研究の振興の重要性も意識して、上の 3 方針が導入されたと理解される。その結果、実に多くの民間機関の研究者が本財団の研究助成の恩恵をこうむって来ている。

この 30 年間の受賞者のリストと研究報告、そしてそれらの研究者のその後の活躍を見ると、本助成事業の意図は十二分に達成されて来たと言えよう。

研究報告集の作成に協力して下さった研究者の方々に深く感謝する。また本事業の設置・運営、発展に努めてこられた先人の努力と功績も誉えられる。

平成 31 年 3 月

審議部会座長 北川 知行

